

船舶インシデント調査報告書

平成25年4月25日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航不能（船外機故障）
発生日時	平成24年10月14日（日） 16時00分ごろ
発生場所	神奈川県横須賀市東京湾海上交通センター北方沖 横須賀市所在の横須賀港走水防波堤灯台から真方位088° 1,000m付近 （概位 北緯35° 15.8′ 東経139° 44.7′）
インシデント調査の経過	平成24年10月15日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ヨット ^{エスペランススリー} ESPERANCE III、5トン未満 235-40834 神奈川、個人所有 7.32m (Lr) × 2.11m × 1.21m、FRP ガソリン機関（船外機）、3.60kW、平成11年11月22日新造
乗組員等に関する情報	船長 男性 22歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成21年11月17日 免許証交付日 平成21年11月17日 （平成26年11月16日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	不明
インシデントの経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、防衛大学校ヨット部の練習の目的で平成24年10月14日10時00分ごろ横須賀市のマリナーを出航して横須賀市観音崎南東の海域に向かった。 本船は、練習を終えて横須賀港第5区走水地区の係留地に向かい、東京湾海上交通センター北方沖において、帆走から機走に切り替えるため、16時00分ごろ、船外機を始動しようとしたが、始動しなかった。 船長は、船外機が始動せず、自力で入港するのは困難であると判断して大学校に救助を要請した。 本船は、来援した作業船に横抱きされて係留地に向かったが、作業船が絡索して運航不能となり、流されて東京湾海上交通センター北西約620mの岩場に乗り揚げた。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 3、視程 約5海里 海象：うねり 波向北、波高約50cm</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、週末、大学校のヨット部の練習に使用されており、船外機は、出入港時に使用されていた。</p> <p>船長は、観音崎南東の海域で練習を行ったのち、帰途につく際、船外機を始動しようとしたが、始動できなかったため、帆走により帰途につき、係留地に入るため、東京湾海上交通センター北方沖において、再度、船外機を始動しようとしたが始動できなかった。</p> <p>本船は、錨を積んでいなかった。</p> <p>本船は、流されて岩場に乗り揚げた際、船外機が、波をかぶったり、岩場と接触したりして損傷した。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 あり なし</p> <p>本船は、東京湾海上交通センター北方沖において、帆走から機走に切り替えようとして船外機を始動しようとした際、船外機が始動しなかったことから、運航不能となったものと考えられる。</p> <p>本船の船外機は、岩場に乗り揚げた際、損傷しており、船外機が始動しなかった要因を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、本船が、東京湾海上交通センター北方沖において、帆走から機走に切り替えようとして船外機を始動しようとした際、船外機が始動しなかったため、発生したものと考えられる。</p>